



2008年岩手・宮城内陸地震における斜面に関わる道路構造物の 損傷モード分析とそれを踏まえた被害関数の構築

庄司学¹⁾、櫻井俊彰²⁾

- 1) 正会員 筑波大学大学院システム情報工学研究科、准教授 博(工)
e-mail : gshoji@kz.tsukuba.ac.jp
- 2) 筑波大学大学院システム情報工学研究科
e-mail : e0611356@edu.esys.tsukuba.ac.jp

要 約

2008年に発生した四川大地震や岩手・宮城内陸地震においては、震源域が山間部に位置したために、斜面の損傷に関わる道路構造物の被災が特徴的であった。本研究では、土木学会・地盤工学会・日本地震工学会・日本地すべり学会合同調査団により示された平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震災害調査報告書のデータを基に、斜面の損傷に随伴した道路構造物の損傷モードを類型化し、地震動強さから被害率を予測する被害関数の構築を試みた。

キーワード： 岩手・宮城内陸地震、斜面損傷、地すべり、損傷モード、被害関数